

平成 2 7 年度

— 第 1 4 回（定例・臨時） —

教育委員会議事録

開 会	平成 2 7 年 1 2 月 1 5 日	午前 午後	1 1 時 0 0 分			
閉 会	平成 2 7 年 1 2 月 1 5 日	午前 午後	1 1 時 3 0 分			
会 議 場 所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	佐藤 進	出	森本哲次	出
	藤井宣夫	出	高本恭子	出		
議事録署名	教 育 長					
委 員	教育長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 条例の改正に伴う関係規則の廃止及び一部改正について</p> <p>議決事項 2 奈良県立いじめ問題調査委員会委員の委嘱について</p> <p>議決事項 3 県立奈良北高等学校における重大事態にかかる調査の実施について</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p> <p>可 決</p>
<p>○吉田教育長「ただ今から、平成27年度第14回定例教育委員会を開催いたします。本日は委員全員出席で、委員会は成立しております。」</p>	
<p>○吉田教育長「まず、前々回の定例教育委員会議事録の承認についてです。お手元に配布している議事録について、各委員内容をご確認ください。ご承認をいただけますか。」</p> <p style="text-align: center;">※ 各委員一致で承認</p> <p>○吉田教育長「既にご承知のように最も安全であるべき学校で、生徒が亡くなるという大変痛ましい事故が起きました。我々教育委員会としても痛恨の極みです。子どもの尊い命を守る点から、事象を重く受け止めて、二度と起こらないよう、再発防止に向けた取組について協議をいただくのが、本日の議決事項 2 と議決事項 3 です。</p> <p>現時点では非公開案件であり、個人情報扱うことから、奈良県教育委員会会議規則第17条に基づき秘密会において審議すべきものと考えます。また議事進行の都合上、議決事項 2 から審議させていただきたいと思えます。委員のみなさまにお諮りします。いかがでしょうか。」</p> <p style="text-align: center;">※ 各委員一致で可決</p> <p>○吉田教育長「委員の皆様の議決をいただきましたので、本日の議決事項 2 及び議決事項 3 については秘密会として審議することといたします。」</p>	<p>承 認</p> <p>可 決</p>
<p>議決事項 1 条例の改正に伴う関係規則の廃止及び一部改正について</p>	
<p>○吉田教育長 「それでは、議決事項 1 『条例の改正に伴う関係規則の廃止及び一部改正』について、ご説明をお願いします。」</p> <p>○塩見教職員課長 「条例の改正に伴う関係規則の廃止及び一部改正について、ご説明いたします。</p> <p>前回の定例教育委員会で提案いたしました、奈良県附属機関に関する条例の改正案が12月議会で可決されまして、教職員結核対策専門委員会が廃止されました。</p> <p>今回の規則改正等の提案は、教職員結核対策専門委員会が廃止されたことに伴い、関連する教育委員会が所管する二つの規則について、廃止及び一部改正を行うものです。</p> <p>具体的には、奈良県教職員結核対策専門委員会規則を廃止するとともに、教職員の結核性疾患に関する取扱規則から教職員結核対策専門委員会への諮問と答申に関する規定を削除しています。</p>	

議 案 及 び 議 事 内 容

ご審議くださるようよろしくお願いします。」

○吉田教育長 「このことについて、何かご意見はございませんか。」

○吉田教育長 「ご意見がないようですので、原案どおり議決してよろしいか。」

※各委員一致で可決

○吉田教育長「議決事項1については可決いたします。」

その他報告事項

○吉田教育長 「その他報告事項について、報告願います。」

○大西学校教育課長「奈良県産業教育フェア及び奈良県高等学校総合文化祭について、ご報告します。

奈良県産業教育フェアについてご報告します。今年度は、11月14日土曜日に“大和の力世界へ夢 未来の風が吹く”のテーマで開催されました。平成4年に第1回が開催されて以来、その内容を充実させながら、今年で24回目を迎えました。

今回は、県立奈良情報商業高等学校を会場として、桜井市を中心とした多くの小・中学生や近隣の皆様、およそ2000人の方に来場していただきました。

このフェアは、県内の職業に関する専門学科等で学ぶ生徒が一堂に会しまして、実習で制作した作品の展示や技術の披露、課題研究などを発表して、それぞれの専門学科における特色ある取組について相互に理解を深めるとともに、県民の皆様を紹介し、産業教育を一層充実させることを目的に実施しています。

このフェアを通じて、新しい時代に対応する産業教育の在り方を探るとともに、多くの皆様に本県の産業教育に対する理解と協力を促し、産業教育の更なる充実につなげるためにも、引き続きご支援を賜りますよう、お願いをいたしました。

奈良県高等学校総合文化祭については、奈良県高等学校文化連盟と奈良県教育委員会の主催で、10月31日土曜日から11月23日の月曜日・祝日までの間、県内各地で開催し、今年で30回目となりました。

テーマは“受け継ごう 30年の歴史を 生み出そう 私たちの今を”とし、県内の高校生が14の部門に分かれて、それぞれの地域の伝統文化を伝えつつ、若くしなやかな感性と力強い生命力溢れる演奏や演技、作品展示等を行いました。

今年度は、大会を通じて3,134人の生徒のほか、保護者等を含む観客8,488人の参加がありました。

11月23日に文化会館で開催しました総合発表部門では、14部門のデモンストレーションが行われたほか、当日は吉田教育長よりご祝辞をいただきました。

30年の歴史を振り返る企画もあり、ジャパン・マレーシア交流プロジェクト2015で来日中のタバ高等学校の生徒による伝統舞踊が披露され、国際的な雰囲気も加えることができました。

この成果を引き継ぎながら、来年度も開催したいと思えます。以上です。」

○沼田保健体育課長「平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等の調査結果について、ご報告します。

調査について、平成20年度より小学5年生と中学2年生を対象に実施されています。平成20年度、21年度は悉皆、22年度と24年度は抽出、23年度は東日本大震災の影響で実施されませんでした。今年度調査は悉皆で実施され、本県からは小学校200校、中学校102校が参加しました。

体力合計点では、小学校、中学校ともに女子が平成20年度の調査開始以降最も高い値でした。小学校男子は、調査開始以降最も低い値でした。

全国と比較した結果です。奈良県の体力合計点については、小学5年生男子が53.66点、全国

議案及び議事内容

平均53.80点、その差-0.14点でほとんど差がないといった状況です。小学5年生女子が54.60点、全国平均55.18点、-0.58点でわずかに低い結果でした。順位では、男子が26位、昨年は21位でした。女子が35位、昨年は31位でした。総合では30位、昨年度は25位でした。

中学2年生男子が42.73点、全国平均41.89点を0.84点上回っています。これは調査開始以降、奈良県として最も高い値でした。女子が48.80点、全国平均49.08点、わずか0.28点及びみせんでしたが、これも奈良県としては調査開始以降最も高い値でした。順位では、男子が15位、昨年度は23位でした。女子が27位、昨年度は25位でした。総合では20位、昨年度は23位でした。

種目別についてです。小学5年生男子では50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げで全国平均を上回っています。女子では上体起こし、20mシャトルランの2種目において過去最高値となりました。

全国的に見ても、男女ともに握力、ソフトボール投げにおいては過去最低値となっており、年々低下傾向となっています。

全国平均と比較した総合的な体力合計点では、小学生女子ではやや低い状態ではありますが、ほぼ全国平均レベルまで向上していると考えられます。

続いて中学2年生です。男子では長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳びの6種目及び体力合計点において、過去最高値でした。女子では反復横とび、50m走、立ち幅跳びの3種目及び体力合計点において過去最高値となりました。

全国の体力合計点は横ばい状態が続く中、奈良県においては、男子は全国平均を2年連続で上回り、女子についても年々上昇し、全国レベルになりました。

県としては様々な事業を行ってまいりましたが、各教員が体力づくりの必要性を理解して、保健体育の授業の充実、運動部活動、学校体育行事等、様々な場面で体力づくりを意識し、各学校の取組を推進した結果と考えています。

続きまして、運動やスポーツの好き嫌い、得意不得意についてです。全体的には全国と大きな差は見られませんが、小学校の男子で運動やスポーツが得意と考えている子どもの割合が、全国平均よりやや高くなっています。保健体育の授業については、小・中学生ともに楽しくないと考えている子どもの割合が、全国と比較してやや高くなっています。学校の運動部活動や、学校外のスポーツクラブの所属率については、全国と比較して男女ともに若干低い状態です。

一週間の総運動時間の分布及び平成26年度との比較についてです。小・中学校ともに運動する子どもとそうでない子どもの二極化が、やはり今年も見られています。女子については、全国と比較し運動していない子どもの割合が高い状況です。また平成26年度と比較すると、総運動時間60分未満の割合が若干増加傾向です。このことから、運動習慣のない子どもへの働きかけが必要と考えています。

オリンピック、パラリンピックへの関心についてです。昨年度と比較して高まりを感じる割合が増加していますが、全国と比較すると若干低くなっています。

今後体力向上を進める上で、小・中学校ともに、運動、スポーツが嫌い、苦手と考える児童生徒や、運動習慣をもたない児童生徒への働きかけが重要と考えており、児童生徒が興味、関心をもって取り組める保健体育の授業や、新たな運動部活動の在り方などを小・中学校の保健体育研究会、また体育連盟と協議を進めていく予定です。

また新たに運動神経系の発達が著しい幼少期の子どもたちに対する取組の重要性を考え、運動事例の紹介や幼稚園、保育所等の教職員を対象とした講習会、訪問支援を行う予定です。

各都道府県別では、小・中学校ともに1位は福井県、2位は茨城県、3位については、小学校が新潟県、中学校が千葉県でした。以上です。」

○吉田教育長「このことについて、ご意見はございませんか。」

○吉田教育長「ご意見がないようですので、承認してよろしいか。」

※各委員一致で承認

○吉田教育長「その他報告事項については承認いたします。」

議 案 及 び 議 事 内 容

○吉田教育長「それではこれもちまして、本日の委員会を終了します。」